

「高雄中学校体育大会」が開催されました！

5月18日（日）、高雄中学校にて第72回体育大会が開催されました。あいにく本番予定であった17日と予備日の18日に雨が降る可能性があったため、急遽16日にまず「プレ体育大会」という形で実施し、幸い18日が晴れたため、あらためて体育大会を実施するという変則的な形での開催となりました。



今年のスローガンは「百花繚乱～高雄色でぬりつくせ～」。綱引き・リレー・フォークダンスなどの他、今回は新たに地域連携種目として玉入れも行いました。玉入れは16日のみの実施でしたが、保護者をはじめとした地域の方々が①万呂・中部②稲成・ひがし③秋津・その他の公民館区別のチームに分かれ、生徒たちと一緒に体育大会を楽しみました。

令和7年度 危険物安全週間の実施について

6月8日（日）から6月14日（土）まで危険物安全週間です。

事業所や個人での危険物の取扱いには十分気をつけましょう。

また、ガソリンを携行缶で購入される際は、右のとおりガソリンスタンドで確認を行いますので、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

令和7年度危険物安全週間推進標語

危険物 無事故へ挑む ゴング鳴る

令和2年2/1施行 **ガソリンを携行缶で購入される皆様へ**

ガソリンの適正な使用を徹底するため、ガソリンを携行缶で購入される方に対して、

消防法で ① 本人確認（運転免許証の提示など）
② 使用目的の確認 を行うとともに、
販売記録を作成することが義務付けられています。

稲成公民館だより

令和7年6月号

未来へつなぐ道
田辺市

【発行】稲成公民館
【館長】倉谷 修治 【主事】小倉 拓
【事務所】田辺市東山一丁目5番1号（本庁舎5階）
【TEL】26-4908 【FAX】24-8323
【館区の人口と世帯数】（令和7年4月末現在）
3,175人（男1,512人・女1,663人）1,546世帯

幸せに生きるために。 稲成公民館長 倉谷 修治

田植えの終わった田んぼでは、稲苗が青々と吹く風にたなびいております。

5月中旬頃より町中のスーパーから、また米が消え、連日「米・米」と米の話題がニュースになっております。コメ不足を受けてか、休んでいた田にも今年は稲苗が植えられているように見受けられます。豊作になれば、また少しはコメの価格が安くなるのでしょうか？農家にとっては複雑な心境ですが。

さて話は変わって、令和3年11月号の公民館だよりでご紹介させていただきました、ウルグアイの前大統領ホセ・ムヒカ氏が先月13日に89歳でこの世を去りました。彼は私たちに「わたしたちは、幸せになるために生まれてきた。」の言葉を残してくれました。また、今NHKで放送されております朝ドラ「あんぱん」の中で柳井寛（竹野内豊）が進路に悩む二人の甥っ子に人生について語る場面がありました。彼は「なんのために生まれて、何をしながら生きるか。何がおまんらの幸せで、何を喜ぶがか。」と言ったのです。二人が残した共通する言葉の意味について、人生について社会にとって本当の「豊かさ」とは何なのか？その意味を振り返り改めて考えさせられた次第です。

ところで、以前読んだ2022年の本屋大賞に選ばれた逢坂冬馬さんの「同志少女よ敵を撃て」。内容は、1940年代のロシアを舞台にドイツ軍との戦場のなか小さな村で母親と狩猟をしながら平和に暮らしていた少女が、村で起こった出来事に復讐することを目的に、やがて銃を持ちドイツ軍に立ち向かうよう訓練される。そして銃を構える姿が描写されていました。先月6日の産経新聞にその描写とともにかなりショッキングな記事が掲載されておりました。「ロシアの脅威に備え、16歳に銃訓練」の見出しです。（ラトビアが国防を高校の必修科目にし、銃の訓練を行った内容。）その記事を見て、もし、自身の子供や孫がこのような境遇にたたされたのなら？と思ってしまったのです。あってはならないことなのです。ロシアとウクライナ、インドとパキスタン、パレスチナ・ガザ地区の人道危機。対岸で起きている数々の紛争。罪のない弱者を巻き添えにしてまで争うその目的は一体何なのでしょう。欲や怒りに任せず、冷静に考え判断できるようになりたいと思います。重い話ですみませんでした。

稲成川に蛍が戻ってきてもう何年になるのかな。ちなみに蛍（の幼虫の餌となるカワニナ）は綺麗な川でしか育ちません。家庭排水や梅酢などで河川が汚れてしまっていたのが、今は蛍が住める状態になったということでしょう。もうすぐすると、蛍が乱舞する姿が見られますよ。

稲成町内会長 挨拶

稲成町の皆様、去る5月1日の稲成町内会総会において再選されました町内会長の山田でございます。
はじめに、先月に降った雹（ひょう）により多大な被害を受けられた農家の皆様に心からお見舞い申し上げます。

令和3年度より、町内会長を引受けて今年で5年目に入りました。この間、新型コロナウイルスにより世の中の動きが止ってしまいましたが、去年頃から平常の生活に戻ることで、町内会の活動もコロナ禍前に戻り、一段落といったところです。しかし、このコロナ禍は私たちの普段の生活を一変させました。特に、地域ごとに行っていた遠足や小宴、運動会は縮小したり、廃止したりと地域の絆が崩れていきました。私はこの崩れていった小さな絆が本当に大事であると思っています。特にいつ来るか分からない「南海トラフ地震」という大震災を目前にして、地域のことは地域で解決する覚悟が無いとこの大災害には対応できないと思っています。

そのためには、普段から住民同士の繋がりがなければ地域の力を発揮できません。この住民の皆様との繋がりを強めるため、町内会の年間の行事を通じて少しでもお役に立てればと考えています。ですから、夏祭りや体育祭、文化祭等に多くの皆様が参加して頂けるよう、「参加して良かった」感が持てる企画をしたいと思っていますので、どうか積極的に参加してみてください。町内会役員全員心よりお待ちしております。

稲成町内会長 山田 能久

【令和7年度 稲成町内会役員】

会長	山田 能久		理事（愛郷会）	榎本 哲也
副会長 土木委員長	尾崎 博文		理事（愛郷会）	阪口 喜保
土木副委員長 下村区長	阪口 賢彦		理事（愛郷会）	服部 修蔵
庶務 会計 谷上区長	澤田 幹男		理事（愛郷会）	梅田 昌宏
谷区長	山本 匡省		理事（愛郷会）	中山 厚志
馬場平区長	田ノ岡 正人		監事	小田 貴司
荒光区長	山本 豊		監事	澤田 章雄
糸田区長	線崎 盛男		監事	榎本 清孝
			監事	山本 鉄也

むつみ町内会長 挨拶

むつみ町内会の会長に就いて2年目になります。役員の方々、会員の皆様のご協力をいただきながら、
どうか、町内会の運営を努めさせていただくことができました。

この場を借りて、皆様のご協力に感謝いたします。

この一年、私自身、町内会の仕事、会長職をこなしていく中で、自治会の意味を考えるようになりました。

そんな中、福井県のある自治体で、町内の家庭ごみのステーションの運営に関して、自治会に加入されていない方に一定の使用料金を支払うように、裁判所が判決を下したという新聞の記事を読みました。

概略を述べると、市民であれば、家庭ごみの回収は行政が行う当然のサービスだと感じるが、実際の運用は、地域住民が自主的に運営する町内会が大きく関与している。「ごみステーションの清掃やルール管理、不法投棄への対応」など、行政では手の届かない部分を担っているのが町内会である。これはごみの回収費用だけを意味しない。「防犯灯・道路の小規模修繕、夏祭り、地域見守り活動」といった地域福祉全般の維持コストである。逆にいえば、町内会は小さな自治体のように、都市機能の末端を担う存在でもある。町内会はボランティア組織でありながら、極めて高度な「生活サービスのサプライヤー」として機能している。

読んで、なるほどなと思いました。

むつみ町内は、高齢化や自治会に対する考え方の変化などもあり、活動に参加していただいていない方も一定数おられます。そういった中、経済的な意味ではなく、まさに「生活サービスのサプライヤー」として町内会を意味づける必要があると思います。

活動をメリットの面だけで考えるべきではない、その街に住む以上は、安心して住める環境をひとつひとつ積み上げてきた自治会の存在を無視できない、と思い、未加入の方々にも協力をお願いして、町内会の活動は少しでも参加していただくべく、活動を進めていきたいと思っています。

先日の、町内会の総会の挨拶でも述べたように「やれるひとが、やれることを、やれるときにする」との考えで、更に住みやすい地区にしていくことに、微力を尽くそうと思っています。

また、日常の活動の他に、当地方でも、東海・南海・東南海の3連動地震や、さらには南海トラフを震源とする地震が危惧されます。私たちも日ごろから災害に備えていかなければなりません。そういった意味合いからも町内会の活動は、意味を持ってきていると思います。

役員の皆様共々、本年もよろしくお願いいたします。

むつみ町内会長 森脇 崇